

(財)日本ユニセフ協会佐賀県支部通信 第26号 2010年12月

事務所：佐賀市水ヶ江4丁目2-2 TEL&FAX 0952-28-2077

e-mail unicef-saga@ams.odn.ne.jp

URL <http://www.2.odn.jp/unicef-saga/>

§ § § 支部通信はホームページでもご覧いただけます



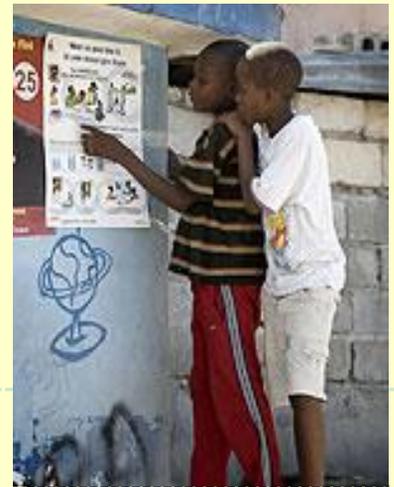
【世界の子どもたち】 コレラから人々の命を守る広報・啓発キャンペーン

(2010年11月23日 ハイチ発)

コレラが猛威を振うハイチ。現地の病院は、増大する患者への対応に追われています。ユニセフは、パートナー団体と共に、コレラの感染拡大を食い止めるべく広報・啓発キャンペーンを展開しています。

首都全域の全ての保健センターや診療所が、あらゆる年齢層の患者で溢れかえっている状況です。医療スタッフは、消毒作業と、脱水症状に陥っているコレラ患者に経口補水塩を数分おきに与えるなど、24時間体制で対応しています。

コレラは、深刻な下痢性疾患から急性脱水症状を引き起こす感染力の強い伝染病です。もし何の治療も施されなければ、患者は数時間以内に死亡する可能性もあります。



○ UNICEF/NYHQ2010-7/Dormino

ハイチのポルトープランスの近隣地域でコレラ予防のための啓発ポスターを読む子どもたち。ユニセフは、この地域で現地NGOと協力して浄水剤も配布しています。

命を守る早期の治療

現在までに、約5万人が医療機関を訪れています。

コレラが流行し始めた一ヵ月以上前からこれまでに、コレラ感染が確認されたのは約2万件。死者は約1,200人に上るものとみられていますが、保健専門家からは、実際の感染者数はさらに多いのではと懸念する声が上がっています。



○ UNICEF/NYHQ2010-2434/Dormino

コレラが流行しているアルティボニット県ゴナイブ町のラボト地区で、ハリケーン「トーマス」による洪水被害で浸水した住居の近くに立つ子どもたち。

ゲスキオ保健センター内にユニセフの支援で運営されている緊急コレラ治療センター（CTC）の外では、治療を受けている患者の家族が、不安な表情で待っています。

こうした保健施設に連れて行く前に、患者に適切な処置を施すこと。それが、ユニセフが展開している広報・啓発キャンペーンの重要なメッセージです。

「コレラの疑いのある症状が現れたら、CTCや病院に向かう途中でもすぐに経口補水塩を与えてください。『時間を無駄にしないで』というのが今伝えたいメッセージです。」「これが、コレラによる生死を左右するのです。」ユニセフのノミレイレ・トリビエ保健専門官医師はこう話します。



世界手洗いの日 10月15日



世界で5歳の誕生日を迎えずに命を終える子どもたちは年間810万人。(2010年9月)
その原因の多くは予防可能な病気です。自分の体を病気から守る、最もシンプルな方法のひとつが、せっけんを使った手洗いです。正しい手洗いを広めるために国際衛生年であった2008年から、毎年10月15日が「世界手洗いの日」(Global Hand washing Day)と定められました。

県内の幼稚園、保育園、小学校では10月15日を中心に8市町(佐賀市、唐津市、多久市、鹿島市、みやき町、玄海町、大町町、太良町)の25施設(幼稚園7、保育所14、小学4)で実施されました。

このうち、佐賀市のあおぞら保育園では年長組の子どもたちを対象に、まず、先生方が作られた図や、手洗いの歌を使って正しい手洗いの方法を再確認。その後、佐賀県のキャラクター、たべんば君が登場し、子どもたちが順番に手を洗うのを、身振り手振りを交えて応援しました。子どもたちは喜んで正しい手洗いを学びました。



徐福長寿館



愛の泉幼稚園



おひさま保育園



あおぞら保育園

※本年も佐賀県にご協賛いただき、たくさん子どもたちが参加して正しい手洗いの方法を楽しく学びました。

◎保健福祉事務所によるイベント等での啓発活動

杵藤保健福祉事務所「インフルエンザ研修会」での啓発(10月15日 武雄市文化会館)

鳥栖保健福祉事務所「防災フェスタ2010」での啓発(10月17日 サンメッセ鳥栖)

- 「世界手洗いの日」は、世界の子どもたちに正しい手洗いの方法を広めるために、ユニセフや世界銀行、水と衛生に関する関係機関や大学、企業など13の組織から成る「せっけんを使った手洗いのための官民パートナーシップ」によって定められた日です。2008年から、毎年10月15日が「世界手洗いの日」となりました。
- 現在、世界では、年間810万人もの子どもたちが5才の誕生日を迎えることができません。その主な原因となる病気のうち、下痢性疾患と急性呼吸器感染症は、年間300万人以上の子どもたちの命を奪っています。
- このふたつの病気の予防に有効なのが、せっけんを使った正しい手洗いです。調査によると、せっけんを使って洗うべきときに正しく手を洗えば、下痢性疾患の発生を約40%、急性呼吸器疾患の発生を約23%削減できることが明らかになっています。
- せっけんを使った手洗いの有効性は明らかなものの、せっけんを使った手洗いの普及率は、高くありません。
- 食事の前やトイレのあと、食べものを調理する前の「手を洗うべきとき」に正しく手を洗っている割合は、世界的には0~34%といわれています。
- 衛生的といわれる日本においても、手洗いはこれから流行が予想される季節性や新型のインフルエンザ、カゼの予防において大変有効です。今年も、日本を含め、世界80カ国以上で、2億人以上の子どもたちがせっけんを使った正しい手洗いを学びました。

【資料提供：佐賀県/日本ユニセフ協会】

ユニセフ写真展「立ち上がる女性たち」

～アグネス・チャン日本ユニセフ協会大使が見た“忘れられた国”ソマリア～

期日：10月14日（木）～21日（木）

会場：佐賀市立図書館2Fロビーギャラリー（佐賀市天神どんどんの森）

後援：JICA九州 佐賀県国際交流協会 佐賀市国際交流協会 佐賀新聞社



「“世界から忘れられた緊急事態”を日本に、そして世界に伝えて欲しい。」昨年秋ユニセフ・ソマリア事務所から寄せられた要請に応え、2010年2月17日から22日までの6日間、アグネス大使はソマリア北東部のハルゲイサを訪問しました。20年以上続く紛争や干ばつ、無政府状態…。150万人以上の国内避難民を抱え360万人以上が人道的な緊急事態の中にいるとされながらも、国際社会から“忘れられた国”ソマリア。長い間の無政府状態によって、当然あるべき社会サービスが崩壊し、子どもの5人に1人は5歳まで生きることができません。女性や子どもたちは常に暴力や搾取の危機に晒されています。しかし一方で、この国の将来を担う子どもたちのために、自らの手でより良い社会を築こうと奔走している女性たちがいます。

フォト・ジャーナリスト新藤健一氏が撮影した写真を通じて、ソマリアの現状と、その再起に向けて立ち上がった女性たち、そして、そこに生きる子どもたちの姿をお伝えしました。

【アンケートより】

- ハルゲイサという場所を聞いたことがなかったのですが、これを機会に知ることができました。今、この時も懸命に生きている人がいることを改めて知ることができ、私もがんばろうと思いました。
- 中学生の時ユニセフについて調べ学習していたけど、それから何年か経ち、恵まれた日本にいと、ソマリアのような国があるということを忘れてしまっていたが、今回の写真展を見て日本の日常の暮らしが当たり前ではないということを改めて感じた。
- 無政府状態で女性や子どもたちは常に暴力や搾取の危機にさらされているということですが、女の子の力強い目の輝きにソマリアの希望を感じました。ユニセフはずっと支援をしていると思いますが、なかなか改善しない社会状況でもユニセフの仕事が徒労に終わらないようにと願いたいと思います。

第7回 ユニセフのつどい

2010年10月17日（日）

佐賀市立図書館 イベントホール

後援：JICA九州 佐賀県国際交流協会

佐賀市国際交流協会 佐賀新聞社

ユニセフ講演会

講師：菊川 穰 氏（財）日本ユニセフ協会団体・組織事業部

演題：「ユニセフの現場から

～レソト、エリトリア、そしてソマリア～」

レソト、エリトリアでのユニセフ現地事務所で青少年育成、子どもの保護及びHIV/エイズ分野を中心とした調整・管理業務に携わられた6年半の経験をもとに話してくださいました。



講演要旨

はじめに ユニセフの活動と聞いて思い浮かぶものは？

- ・人道支援（医薬品、栄養補助食）
- ・保健（予防接種、保健教育）
- ・教育支援（教員育成、学校建設、文房具配布）
- ・水・衛生（井戸・トイレ建設、衛生教育）
- ・子ども保護（孤児支援、虐待防止）
- ・アドボカシー・啓発（エイズ予防、児童ポルノ、子どもの参加）

レソト王国 マセル 2000.10～ 2003.9 教育担当官、後、青少年育成担当官として勤務

アフリカで唯一識字率・進学率が女子よりも男児が低い

男の子が学校に行かないわけ

男の子は牛飼いの仕事をしなければならない。牛飼いは男の子が男性になるための通過儀礼である。男の子は牛飼いの仕事ができてこそ一人前。



牛飼いの少年©kikugawa



夜間の識字教室で学ぶ少年©kikugawa

そこで

夜間の識字教室を作った。⇒昼間、牛飼いの仕事をしていた男の子たちが、夜間の授業を楽しみにして出席するようになった。

HIV/エイズ

成人男性の3人に1人がHIV感染者。薬が高価だったのでエイズは死の病として恐れられていた。だれもエイズのことは話さない。

テコンドーがスポーツとして取り入れられている。

アフリカで一番新しい独立国（1993年）

成人HIV感染率2.4%

軍がパートナーとなってunicefの仕事を進めた。
男性・女性が一緒に社会には出られないという文化

はしかの予防接種と一緒にビタミンAの投与
独裁政治とはいえ、政府が子どもの健康については優先
していたのでやりやすかった。
5歳未満児の死亡率減少は世界で一番



予防接種プラス◦kikugawa

マラリア予防用の蚊帳の有効性の広報

子どもの保護⇒孤児の保護

収入向上支援⇒ラクダを貸す

水⇒雨が少ないため、ひえやあわも育たない。
人のための水と同じように家畜のための水も非常に重要
動物の水飲み場を作る⇒人と動物の水飲み場を区別する
島まで水を汲みにいく⇒地下水池



マラリア予防用の蚊帳の広報◦kikugawa

ソマリア 91年から内戦状態

治安が大きな問題

ソマリアのエイズ予防はエリトリアより更に深刻

6人に1人は慢性的な食糧不足

まとめ

支援者にとってのわかりやすい支援の重要性

説明責任⇒自分の募金はどこでどう何に使われているのか？

なぜユニセフなのか⇒子どものためのワクチン、栄養補助、文房具、学校等イメージが具体的
で、必要性が明確

途上国現場におけるジレンマ

本音1：箱物・物資支援は現地ユニセフ事務所にとっては運営が大変！

本音2：しかし、箱物支援は、支援者からも、現地政府関係者（特に政治家）からも期待されている分野

本音3：成果が見えにくいソフト型支援

（例）水資源管理組合を作る

現場におけるソフト型支援の必要性

長期的視野に立った政策提言、法改正等の上流レベルの重要性

途上国政府によるオーナーシップを高めるための支援の拡充 ⇒ 自助努力を促進する

ユニセフ出前授業&募金贈呈式 10月23日(土) 柳川市立大和公民館

○柳川市立大和公民館青少年ボランティア「なんでんお助け隊」(小学4年生～高校1年生まで26人)の皆さんは、9月20日柳川市民体育館で開催された「柳川市リサイクルマーケット」に出店しました。夏休みに、家庭から持ち寄った材料でマスコットやコースター、かわいらしい髪留め、ミサンガ、マフラー等を作り、更にバッグやタオル、食器などの日用品を販売しました。リサイクルマーケットの収益金18,920円を「世界の子どもたちのために役立ててください。」と託されました。

○その後DVD「いのちの水～西アフリカ・マリからの報告～」を視聴し、村に井戸ができたことによって、村の人々の暮らしが色々な面で改善されている様子を知りました。さらに、「スペシャルドリンク」作りをして、脱水症から命を守るORS(経口補水塩)についてお話をしました。

【学習を終えて】

○井戸がとても大切なものだということが分かった。

○アフリカの人々は水を大切にしているので、私も水を大切にしようと思った。

○お風呂やトイレ、部活など、日常生活の中でたくさん水を使っているけど、そのうえにさらに目に見えないバーチャルウォーターなどたくさんの水を私たちは使っている。日本は水をふんだんに使える裕福な国だと思う。一方で、世界にはきれいな水に恵まれない多くの人々がいるので、私たちは水を大切にしなければならないと改めて思った。

○将来、ユニセフで働きたいと思った。頑張ろう!と思う。



ユニセフグッズの頒布&募金活動 10月31日(日)

第35回日本ハンドボールリーグ佐賀大会にて(神崎中央公園体育館)

○第35回日本ハンドボールリーグ佐賀大会会場においてユニセフグッズ頒布、募金活動をしました。佐賀大会2回目の本日は「神崎市民応援DAY」として位置づけられ、多くの市民の方々が地元トヨタ紡織九州レッドトルネードチームの応援に駆け付けられました。

○試合後にレッドトルネードの選手の皆さんが募金箱を持ってユニセフ募金への協力を呼び掛けられました。応援DAYにいられた皆さま、会場に出店されていた企業の皆さま方のご協力で、29,394円の募金をお預かりしました。ありがとうございました。



ユニセフグッズの頒布 11月7日(日) 日本バプテスト連盟佐賀キリスト協会(佐賀市)



- 佐賀キリスト教会では1993年の佐賀友の会(佐賀県支部の前身)設立準備年以来毎年ユニセフカード・グッズの頒布にご協力をいただいています。
- 「幼児祝福式」のあと、ユニセフのグッズをご紹介しました。礼拝に来ていたかわいい子どもたちもユニセフのクリスマスカードやプロダクツを手にとって見て、お母さんに買ってもらっていました。
- スタッフは「今日祝福された子どもたちのように、今この時に生まれた子どもたち、今日を生きる世界の子どもたちにもこのような幸せがありますように」との思いで、頒布のお手伝いをさせていただきました。

ユニセフパネル展&グッズの頒布 11月7日(土) 本庄まつり かたりべの里会場にて(本庄小学校)

- 好天に恵まれ、沢山の参加者があり、賑わいました。
- ユニセフブースでは、パネル展示、バザー、グッズ頒布をしました。
- バザーコーナーでは、お小遣いでぬいぐるみやマグカップを買ったり、おじいちゃんにと焼酎のカップセットを買って下げて行く男の子、なんとも微笑ましい光景でした。カードコーナーでは「毎年買いにきているよ。」という子どもさんや「ニューヨークの国連本部に行った時ユニセフグッズを買ったので、本庄小でもお母さんに買っていきます。」と言ってカードを買ってくれた子どもさん。またビタミンAやプランピーナッツ、ORSの説明をする、募金に協力してくれる子ども達もいました。



イオン 幸せの黄色いレシートキャンペーン 11月11日(水) ジャスコ佐賀大和店



- 毎月11日に行われている「幸せの黄色いレシートキャンペーン」活動に参加しました。
- 店内にはキャンペーンの旗がレジ毎に立ててあり、放送も何度もしていただきました。キャンペーンの趣旨がお客様に浸透されているようで、大勢の方が進んでレシートを提供してくださいました。また「お買い上げの1パーセントが、世界の子どもの募金になります。」と説明させていただくと、快く提供してくださいました。

ユニセフ出前授業 11月17日(水) 柳川市立矢ヶ部小学校1年～6年
「水とトイレと子どものいのち」

○「水とトイレと子どものいのち」というテーマで、低学年の部・高学年の部の2部に分けて学習をしました。最も身近な「トイレ」の話を切り口にして、ユニセフの活動「水と衛生」の学習に子どもたちは生き生きと取り組みました。



【学習を振り返って】

○マリの人たちが、井戸ができたときに涙を流して喜んで「夢みたいだ。」と言っていた。きれいな水が使えるということはそんなにもうれしいものかと初めて知った。だからぼくもそんなに大切な水だからこれからは水を大切に使おうと思います。

○いつも何も考えないでトイレを使っているので、家や学校にトイレがないところがあるなんて思ったこともなかった。トイレに行って水を使えるのは当たり前だと思っていた。でも、世界にはちゃんとしたトイレを使えない人が26億人もいるなんてびっくりしました。

○マリでは5歳の誕生日を迎えられなくて亡くなる子どもが5人に1人の割合だと聞いて驚きました。かわいそうだなあとと思います。きれいな水やトイレがあれば死ななくてよかったと思います。

○トイレと水と子どものいのちが、つながっているということがよく分かりました。



パネル展・ユニセフグッズの頒布 11月20日(土)～21日(日)

第62回全国人権・同和教育研究大会 佐賀大会 佐賀会場 (佐賀市文化会館)

第62回全国人権・同和教育研究大会佐賀大会が20日・21日の二日間にわたって佐賀県内3会場(佐賀市・武雄市・唐津市)において開催され、全国各地から1万人を超える参加者がありました。

佐賀会場の佐賀市文化会館イベントホールには15の市民活動団体の展示ブースが設けられました。

佐賀県支部はパネル展「子どもの権利条約を読んでみよう」と、ユニセフグッズの頒布、ビデオ上映をしました。県外から参加された方から、支部の活動内容や、自分の県に日本ユニセフ協会の支部はあるのか、子どもの権利条約とユニセフの関係は、グッズの頒布目的は、等々のお尋ねがあり、有意義な交流の場となりました。



子どもの権利条約 4つの柱

1. 生きる権利
2. 守られる権利
3. 育つ権利
4. 参加する権利

「出会う・つながる」子育て支援 ばぶばぶフェスタどん3
(佐賀市どんどんの森・アバンセ)



- 子育て支援イベント「ばぶばぶフェスタどん3」(佐賀県・佐賀新聞社主催)は好天に恵まれ会場は13,000人の親子連れで終日賑わいました。家族でいろいろな催しを通して学びながら楽しく過ごしました。
- 「にこにこゾーン(交流・体験)」のユニセフのブースでは、子どもが生まれてから小学校を卒業するまでを、名前の登録⇒予防接種⇒水汲み⇒井戸ができる⇒教科書をもらう⇒…等々を、すごろくを通してたどっていきました。小さな子どもたちも大きなサイコロを転がして楽しく参加していました。

ご支援ご協力
ありがとうございます



佐賀清和中学校生徒会様 トヨタ紡織九州株式会社様 龍谷高校3年生様 母子草様
大和中学校様 大和町公民館なんでもお助け隊様 緑のテラス清水様 立正佼成会唐津教会様
カイセイ薬局荒江店様
佐賀県 カイセイ薬局伊万里駅前店様 サニーハウス様 (株)第一マネージメント様 錦粧様
副島病院様 佐賀大学医学部学生課様 佐賀リハビリテーション病院様 佐賀キリスト教会様
千代田中部小学校PTA様 佐賀新聞社様 佐賀市役所高齢福祉課様 正島脳神経外科病院様
本庄公民館様 第62回全国人権・同和教育研究大会佐賀大会実行委員会様

(2010年10月1日～2010年11月25日)

★いろいろな形でのご支援、ご協力に心から感謝申し上げます。この欄でのご紹介は学校・企業・団体等のみにさせていただきます。個人の方からもたくさんのご支援をいただいておりますが、平成17年4月1日からの「個人情報の保護に関する法律」施行に伴い、個人の方のお名前の掲載は控えさせていただきます。

これからの予定

- 12月1日（水）ユニセフ出前授業
大川市立木室小学校「名前があるということ 誕生日があるということ」
- 12月12日（日）ユニセフ ハンド・イン・ハンド
ゆめタウン佐賀店 イオンスーパー佐賀店 バニーズ三日月店
- 12月17日（金）ユニセフグッズの頒布
佐賀新聞社 **Begin** 日野原重明先生講演会場にて
- 12月19日（日）ユニセフ ハンド・イン・ハンド
佐賀玉屋前 ジャスコ佐賀大和店 ホームワイド佐賀大和店
ベスト電器佐賀大和店 上峰サティ

ボランティア
募集！

いっしょにハンド・イン・ハンドに参加して下さる方を募集しています。

年末のご多用なときではありますが、少しの時間でもけっこうですのでご協力をお願いします。

とくに、**12日のゆめタウン会場**
19日の佐賀玉屋前会場へ！！

* 詳しくは同封のチラシをご覧ください。
準備の都合上、12月7日までにファックス
または、メールでお知らせください。

ユニセフの年賀状やグッズをご利用になりませんか？

- ♪ユニセフの素敵なグリーティングカードやはがき、お洒落なファッション雑貨、可愛い子ども用品がいっぱいです。
- ♪カード類は、佐賀玉屋デパート南館インフォメーションにてもお求めになれます。
- ♪ユニセフ製品は、製品代金の約50%がユニセフ活動資金として世界の子どもたちのために役立てられます。



ユニセフ紹介 ②

ユニセフって何だろう??
ユニセフの活動などについて少しずつ紹介します



ユニセフは、何をめざして、何のために活動しているのだろう?

ユニセフがうまれてから50周年を迎えた1996年、ユニセフの使命が文章になって示されました。この中にユニセフはどのような役割をになって活動するのが書かれています。

ユニセフの使命

- ユニセフは、子どもの権利を守り、子どもがもつてうまれた能力をじゅうぶんに発揮できるチャンスを広げるために活動する国際連合の機関です。
- ユニセフは、「子どもの権利条約」にもとづいて活動し、この条約がひろく子どもに対する行動の基礎となるように努力します。
- ユニセフは、子どもの生存、保護、発達が、人類の進歩にとって欠かせないものだと考えます。
- ユニセフは、各国の政府などにはたらきかけ、「子ども最優先」が実現するように支援します。
- ユニセフは、もっとも困難な状況にある子どもたちが特別の保護を受けられるようにします。
- ユニセフは、緊急事態にすばやく対応して、子どもを守ります。
- ユニセフは、中立の機関で、もっとも支援を必要としている子どもを優先的に援助します。
- ユニセフは、女性と女の子が男性と同じ権利を得られるように支援します。
- ユニセフは、国際社会の平和と調和のある発展をめざします。



ユニセフはどこでどんな活動をしているのだろう?

ユニセフは今、世界の150以上の国と地域で活動しています。そのほとんどは開発途上国とよばれている国ぐにです。

ユニセフの活動は、子どもたちの命と健康を守ること、子どもが健康に成長するために必要なものをじゅうぶん手に入れられるようになること、また「子どもの権利条約」で定められた子どもの権利が守られることを目指しています。

ユニセフの本部はアメリカ合衆国のニューヨークにあります。また、支援のための物資(活動に使われるさまざまなもの)を調達したり、保管したりするセンターがデンマークの首都コペンハーゲンにあります。

子どもに関わることがらを研究するセンターがイタリアのフィレンツェにあります。